

堅守速攻が持ち味の東北学院大学アイスホッケー部

# 氷上の覇者を 目指す伝統校

冬は寒いが、ウインタースポーツは熱い。  
2月4日に北京で開幕する冬季オリンピックピックを前に、  
県内屈指のスケートタウン・泉区で活動する  
東北学院大学アイスホッケー部を取材。  
アイスホッケーの魅力と彼らの実力を探る。



## DEFENSE

同部のモットーは「勝利に貪欲であれ」。守るだけじゃない、攻撃力も高い武石主将を筆頭に、攻めるディフェンス陣が創部58年の伝統を死守する



## FORWARD

フォワードの小野寺悠介選手は、ゴールまでバックを運ぶスキルとシュートに長けたエース。宮城県の国体選手でもある。法学部法律学科4年。東北高校出身



## GOALKEEPER

時速160キロメートルにもおよぶシュートを受け止める守護神、望月春陽選手。ゴールキーパーはひととき重装備で迎え撃つ。経済学部経済学科2年。東北高校出身

### 速くて強くて格好良い 氷の上のスーパー戦隊

練習場所であるベルサンピアみやぎ泉のスケートリンクに、ジャージ姿の選手たちが大きなバッグを抱えて現れた。第一印象は今どきの大学生で、生身は思ったよりも細く引き締まっている。それが、戦闘服で身を固め、スケート靴を履いてリンクに立った途端、まるで別人に。戦隊ヒーローの変身シーンを目撃したような瞬間だった。

アイスホッケーは、バックと呼ばれる球をスティックで打ち合い、相手方のゴールに入れて得点を競うスポーツ。氷上の格闘技ともいわれ、スピード感あふれる動きと激しいぶつかり合いが見ものだ。危険も伴うため、ヘルメットやグローブだけではなく、ユニフォームの下にはよろいのような防具をまとう。

強い衝撃、防具の負荷、氷上というフィールド。なかなかハードルの高い競技だが、そここそ面白さがある。



## UNIFORM

「防具をつけてスケート靴を履くと、スイッチが入るように高揚します」と、風間選手。重厚感あるユニフォームやアイテムが、闘志を奮い立たせる



## FACE OFF

アイスホッケーで試合開始を意味する、フェイスオフ。向かい合う二人の間に審判がバックを落とし、それを奪い合う一騎打ちからゲームが始まる



## ONE TEAM

幼少期からの経験者揃いで、国体で活躍する注目選手も多い精鋭チーム。少数ながら一人ひとりのスキルが高く、少数だからこそ結束力も強い



主務 **風間浩輔**さん  
強靱な体力と軽快なフットワークに定評のあるフォワード。事務作業や他校とのやり取りなどを担い、リンクの外でもチームを支える縁の下の力持ち。教養学部情報科学科3年。高崎工業高校出身

主将 **武石賢弥**さん  
キャプテンを表すCマークを左胸につけ、絶大な信頼感で一年間チームを率いた立役者。卒業後は故郷の岩手県に戻り、社会人チームでプレー予定。教養学部地域構想学科4年。盛岡中央高校出身

information  
東北学院大学 アイスホッケー部  
Instagram・Twitter・YouTube  
「東北学院大学 アイスホッケー部」で検索

学院大アイスホッケー部の  
大迫力プレーを動画で  
チェック!



「他の競技より制限が多い中、ゴールを決める爽快感やチームで勝利を掴んだときの達成感は大い。このうれしさは、アイスホッケーでしか味わったことがありません」と、東北学院大学アイスホッケー部主将の武石賢弥選手は話す。

約10キログラムもある防具をものともせず、時速40から60キロメートルの速さでリンクを駆け回る選手たち。靴はフィギュアやスピードスケートよりも刃が小さく、小回りが効く。エッジを使い分け、巧みな足さばきで、速度も方向転換も自由自在。迫り来る敵を体当たりで交わしながら、華麗なスケータインングとスティック使いでバックをつなぐ姿は、本当にスーパー戦隊みたいで格好良い。

### アイスホッケーを広めたい マイナー競技ゆえの苦勞も

全国的に見ても、決してメジャーな競技ではない。ましてやフィギュアスケート聖地の仙台では、フィギュア

と人気の差は歴然。県内きつての強豪である同大学ですら、部員集めに苦勞をしていた。

アイスホッケーでは、リンクに上れるのは6人だが、22人までベンチに待機でき、試合中いつでも交代できる。人数が多いほど戦力を温存できるのだが、同大学のプレイヤーは10人。他校より少ない人数で回さなければならぬ。そのため、体力作りはもちろんだ、インターバルトレーニングも強化。疲れても瞬時に回復できる能力を鍛えているというから、すごい。

彼らの本領は、堅守速攻を体現したプレーにあり。「失点しなければ負けない。人数が少ないぶん、守りを固めて少ないチャンスをものにする流れをイメージしながら、常に試合を想定して練習しています」と、武石主将。主務の風間浩輔選手も、「この場面であんなにどうするか。あうんの呼吸で、皆がわかっているんです」と続けた。

練習は週3回。泉キャンパスの体

育館で陸上トレーニングをした後、リンクに移動して22時から氷上練習を始める。随分遅い時間だが、ジュニアや高校生、フィギュアの練習を優先すると、彼らがリンクを使用できるのはその時間に。深夜まで汗を流した翌日も、朝から授業を受け、就職活動やアルバイトまでこなすハードな日々。

それでも、応援してくれる人の存在が力になる。競技人口が増えれば、レベルはもっと上がっていく。「子どもたちや読者の皆さんに、アイスホッケーに興味を持ってもらいたい」と、スケジュールの合間を縫って取材に応じてくれた。

### 一から連覇を狙う新チーム 東北王者の奪還を祈願

同大学は日本学生氷上競技選手権大会（通称インカレ）の東北予選で、2018年から3連覇している。しかし、2021年は八戸工業大学に敗れ、まさかの予選準決勝で敗退。3位にとどまる。

敗因の一つに、コロナ禍で公式戦が減った背景がある。大舞台に慣れない1、2年生をはじめ、久しぶりの試合に緊張し、実力を出せなかった選手が多かったそう。さらに、東北1位校として、他校から研究されていたことも追い打ちに。

予選の悔しさをばねに臨んだのは、インカレ本選を逃した各地区の上位校による、セカンドディビジョン。12月末に北海道帯広市で行われた。1回戦、準決勝ともに圧勝。決勝では大阪工業大学に敗れるも、その差はわずか1点と、最後まで引けを取らないプレーで少数精鋭部隊の強さを見せた。

同大会をもって、武石主将ら4年生は引退。次期チームを牽引する風間選手はこう話す。「4年生をインカレファーストに行かせてあげられなくて悔しい。と同時に、今年の後輩たちと同じ思いをさせたくない、気が引き締まります。負ける悔しさを知って、また強くなる。先輩から後輩へ、伝統のバックはつながれた。